

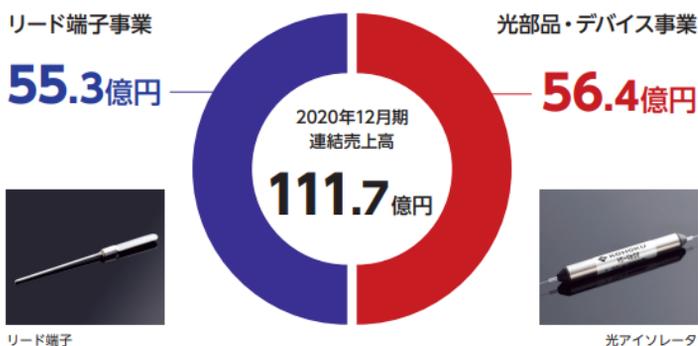
**湖北工業**

6524 東証2部

**高シェアを誇るグローバルニッチトップ企業**
**海底ケーブル用光部品で世界トップシェア**

経済産業省は世界市場のニッチ分野で高い競争力を有する企業を、グローバルニッチトップ企業として選定しているが、同社は海底ケーブル用光部品で世界トップシェアを有し、「2020年版 経済産業省グローバルニッチトップ企業100選」の1社として選定されている。

事業内容は大きく2つに分類され、①上記の海底ケーブル用光部品を製造販売する「光部品・デバイス事業」、②アルミ電解コンデンサ用リード端子の製造販売を手掛ける「リード端子事業」から構成される。20年12月期連結売上高111.7億円のうち、「光部品・デバイス事業」が56.4億円、「リード端子事業」が55.3億円であり、両事業の規模感は拮抗している。



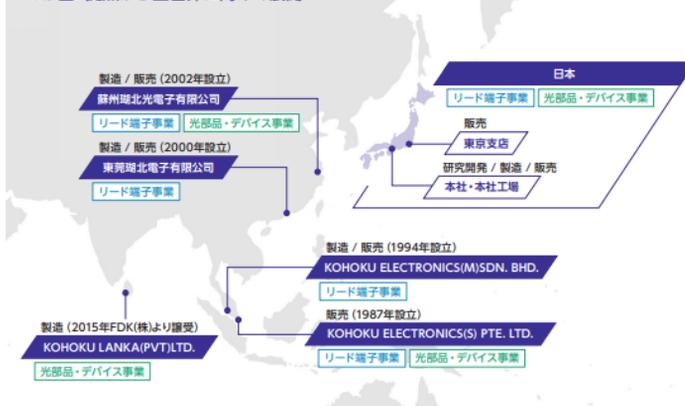
リード端子



光アイソレータ

**グループおよび拠点**

5か国7拠点から全世界に向けて展開



(出展: 会社資料より)

## 高シェアを誇るグローバルニッチトップ企業

### 海底ケーブル用受動光デバイス供給は世界で2社

「光部品・デバイス事業」においては、主に光アイソレータや光フィルタといった海底ケーブル用受動光デバイスを製造販売している。海底ケーブルは深さ6000メートルもの深海に敷設され、運用期間は四半世紀にも及ぶだけに、ケーブルはもとより、システムを構成するデバイスには高い性能と信頼性が求められる。競争力の源泉は光デバイスに用いられる素子づくりから組み立てまで一貫して行うことができる生産技術および生産体制にある。祖業は「リード端子事業」のアルミ電解コンデンサー用リード線端子だが、1986年に磁気光学結晶の製造技術を確立。その応用製品としてファラデー回転子と呼ばれる光の偏光方向を回転させる特性を持つ素子の量産化に成功したことが、長距離光通信用デバイス市場進出の足がかりとなった。

20年12月期のセグメント売上高は前期比20.8%増の56億円、セグメント利益は同56.7%増の23億円であった。

光アイソレータや光フィルタといった海底ケーブル用受動光デバイスの製造販売を手掛ける企業は、実質的に世界で2社であり、同社と米ルメンタムの寡占市場となっている。高いシェアを有していることから、収益性は極めて高く20年12月期のセグメント利益率は52%を記録した。

5Gの普及に伴うモバイルデータ通信量の増大や、各国でのデータセンター建設増加などを背景に、国際通信における回線需要の大幅な拡大が予想されており、引き続き海底ケーブルの敷設ニーズも増加基調が続き、同社の「光部品・デバイス事業」についても成長が期待できよう。

## 湖北工業

6524 東証2部

## 高シェアを誇るグローバルニッチトップ企業

## アルミ電解コンデンサ用リード端子も世界トップシェア

「リード端子事業」では主に、アルミ電解コンデンサ用リード端子を製造販売するが、同社はこの市場においても世界トップとなる40%のシェアを有す。同社はリード端子をパナソニック、日本ケミコン、ニチコンなどのアルミ電解コンデンサメーカーに販売している。同社リード端子が組み込まれたアルミ電解コンデンサは、車載機器、情報通信機器、産業機器、家電機器に用いられている。

※コンデンサは①充電と放電が瞬時にできる、②直流は通さないが交流は通す、③周波数が高いほどよく通すという性質を持っている。あらゆる電気、電子回路にコンデンサは利用されており、例えばPCやスマートフォンといった先端機器は、コンデンサがないと回路が成立しないばかりか、コアとなるCPUや通信チップにとってコンデンサは最も重要な外付け部品の一つとなっている。

20年12月期のセグメント売上高は前期比4.3%増の55億円、セグメント利益は2億円(前年同期は0.2億円の赤字)であった。

今後アルミ電解コンデンサの需要拡大が特に期待されるのは自動車向け。電気自動車・ハイブリッド車等の環境対応自動車の普及や、自動運転や先進運転支援システムの実用化等を背景とした自動車全体の電装化が進み、小型アルミ電解コンデンサに対する小型化、耐振性、低漏れ電流等の要求水準が高くなっている。同社これらのニーズに応え「リード端子事業」においても、持続的な成長を図る。

**湖北工業**

6524 東証2部

**高シェアを誇るグローバルニッチトップ企業**
**中長期の成長見通し**

20年12月期に初めて売上高が100億円の大台を突破し111億円を記録した。21年12月期売上高は24.9%増の139億円が見込まれている。

「リード端子事業」では電装化が進展する自動車用途に加え、情報通信機器、産業機器等の需要拡大が勢いを増していることから、アルミ電解コンデンサ市場の活況を背景として前期比29.8%増となる売上高71億円を計画している。

「光部品・デバイス事業」では主力の海底ケーブル市場における公共・民間を問わないプロジェクト需要が大変旺盛な環境にあり前期比20.1%増となる売上高67億円を計画している。

同社製品の需要は「リード端子事業」「光部品・デバイス事業」ともに拡大しており、今後数年トップラインは平均的に2ケタの成長が期待されよう。

連結業績推移（百万円・%）

決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2019/12	9,979	—	1,360	—	524	—
2020/12	11,176	12.0%	2,357	73.3%	1,562	197.8%
2021/12 予	13,963	24.9%	3,770	59.9%	2,661	70.3%
2021/9 3Q	10,669	—	3,391	—	2,221	—
予想EPS／配当	単独：-円 連結：295.67円／-円 ※予想EPSは上場時発行済株式数で試算					

## 免責事項(ディスクレマー)

株式会社フィスコ(以下「フィスコ」という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかなるを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

## ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号

株式会社フィスコ

電話: 03-5774-2443(情報配信部) メールアドレス: support@fisco.co.jp